

## 家庭での性教育の実態調査 ～ 小学生をもつ親へのアンケート調査より ～

6-1病棟 稲川由美

### I. はじめに

核家族化，少子化，インターネットの普及等により人間関係が希薄化している現代，誤った性情報の氾濫，性交渉の低年齢化，性感染症の増加等，子ども達は深刻な環境に置かれている。殊に現代の子どもは，親世代が思春期を過ごした時代と比べものにならない程の情報にさらされている。そこで家庭での性教育の実態と性教育に対する親の意識を把握し，今後の性教育に活かすため小学生をもつ親へアンケート調査を行った。

### II. 研究方法

平成21年5月時点で公立小学校の在校生を子にもつ親221名を対象にアンケート調査を実施。回答は142名，回収率は64.3%であった。

### III. 結果

家庭で命の大切さについて子どもと話した事があるかについては「ある」が71%，「ない」が27%であった。

家庭で性教育を実施した事があるかについては「ある」が11%，「ない」が89%であった。

性教育を優先的に行うべきなのは「親」が38%，「医師・助産師」が37%，「養護教諭」が14%，「担任」が8%であった。

性教育の二次的な実施者として望ましいのは「親」が30%，「養護教諭」が26%，「担任」が22%，「医師・助産師」が19%等であった。

性教育の開始時期については「小5～6年」が53%，「小3～4年」が27%，「中学」が9%等であった。全体に「段階別に行うべき」と記載のあるケースが多かった。

大人同士で性教育について話し合った経験については「なし」が57%，「あり」が41%であった。

性教育について話し合った相手については「親（夫婦間）」が43%，「子育て世代の友人」が40%，「親の兄弟」が8%，「祖父母（親の両親）」が6%であった。

### V. 考察

性教育を優先的に行うべきとして「親」「医師・助産師」がほぼ同数であり，専門家による正しい知識の伝達を望んでいる親が多いことがうかがえる。二次的な実施者でも「親」の割合が高く，家庭における性教育の必要性を認識してはいるが，性教育の実施率は11%に過ぎず，家庭では十分な性教育を行っていない現状が分かる。

性教育の開始時期については「小学3～6年」が8割と多かったが，「段階別に行うべき」との記載が多くみられた。幼少からの親の躰により子どもへの性教育は既に始まっており，子どもが性器も大切な体の一部であるという印象を持てるよう，出産前後からの親への知識の提供も大切になっていくと考える。

「性教育について話し合った相手」では「夫婦間」と「子世代の友人」で8割を超えることから，医師・助産師・養護教諭・担任等といった専門家や教諭等には相談しにくいことがうかがえる。

性教育を「命の教育」と位置付けたとき，忘れてはならないのが「自尊感情」を育むことである。「自尊感情」は自分を大切にし，自分の存在を受け入れる事で他者も大切にすることにつながる。

親世代も十分な性教育を受けたことがなく，家庭での性教育が十分に行われていない現状と子供たちの置かれている深刻な環境を考えた時，正しい性教育を行う事は急務である。家庭・学校・地域が一体となり子供の性を守るためにも，医師・助産師等の専門家による，親を巻き込んだ性教育が必要と考える。